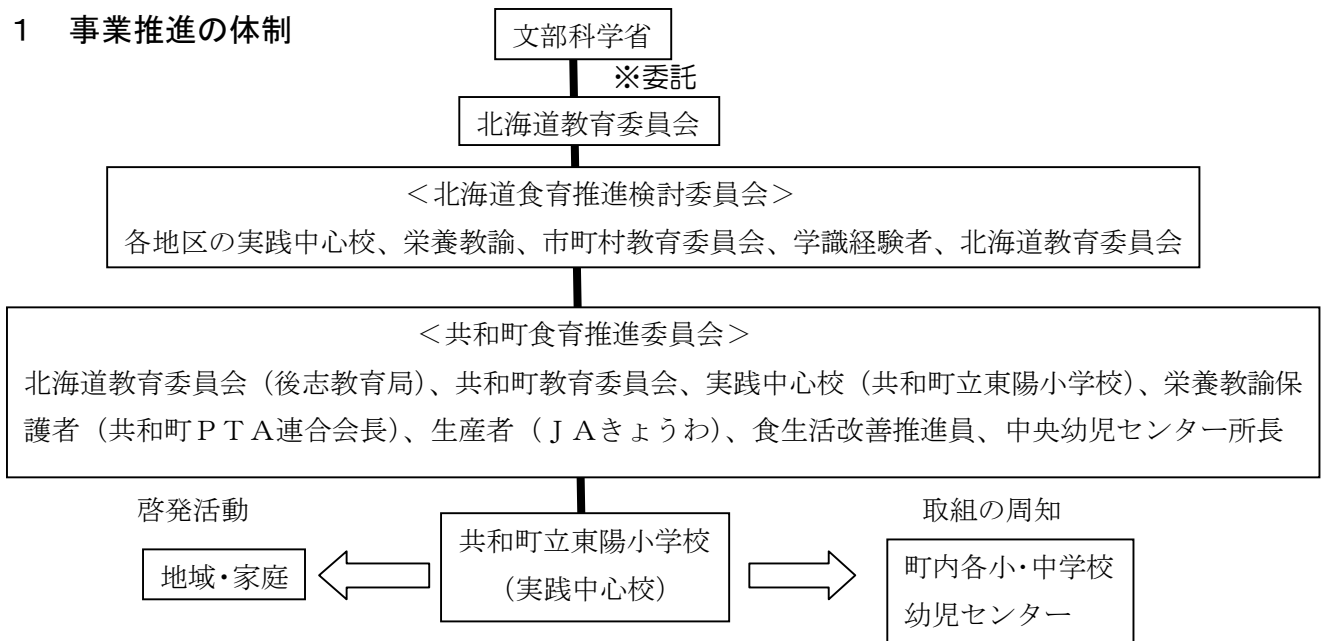


再委託先名	共和町
-------	-----

1 事業推進の体制



2 事業内容

テーマ1 学校における食に関する指導の充実

I 実践中心校における児童の実態を踏まえた食に関する年間指導計画に基づく指導方法の工夫・改善
「食育に関するアンケート調査」(H21年5月)の結果をもとに、課題となった事項についての調査を実施し、食育推進の重点化を図る。

1 児童の実態と課題

- (1) 食生活の乱れと健康への影響(食育に関するアンケート調査結果より)
 - ① 中学校の生徒のうち3%で欠食が見られるため、0%を目指すことが必要(欠食)
 - ② 共和町には「こびる」という午前午後に間食を摂る習慣があるため、食事に影響しない間食に適した量や内容について知る必要がある(間食)
 - ③ 子どもだけで食事をしないような環境づくりが必要(孤食)
- (2) 食の摂取状況
 - ④ 成人では、食物繊維不足であり野菜摂取量が不足傾向にあるため、子どものうちから野菜の栄養やおいしく食べる調理方法を学び、家庭生活を担う保護者も必要な野菜の量を知ることにより、食意識を変え、野菜料理が食卓で増えることが必要(食への意識)
- (3) 食への関心について
 - ⑤ 「食育」という言葉はある程度認知されているものの、その内容については十分に理解されていないのが現状である。そのため、関係機関や地域住民が連携して様々な取組を進めていくことが重要であり、「食育」という言葉だけでなく「食育」の意義を十分理解し、共通認識を図りながら進めていくことが必要(食育への理解)

(4) 地産地消について

- ⑥地域からは、多彩な特産物が販売されているが、多くは販売店が限られたり、道内外の市場に出荷されたりしているため、地域住民が手に入りにくい状況である。地産地消の取組では、消費者は生産者の「顔」が見えることにより、新鮮な食材を確保するだけでなく、安全・安心に対する取組への理解が深まることから、地産地消の充実をより一層図ることが必要（地産地消への理解）
- ⑦農業体験などを通じ、食に関する知識を学ぶ機会を提供し食への関心の向上に努めることが必要（体験活動の充実）

2 課題についての取組

- (1) 栄養教諭、学級担任が連携した食育指導に関する授業公開 <対応課題 ①②③④⑤⑥⑦>
 - ・全学級給食指導の実施<9月> 給食時間（40分）配膳から後片付けまで学級で担任と共に給食指導
 - ・授業公開 3年生「国語 すがたをかえる大豆」11月22日（公開研究会）
 - ・食育指導 全学級 11月～1月<公開授業1月予定>
- (2) 栽培、食品加工などの地場産物を活用した親子料理教室や、地域生産者との味噌づくりの体験活動を取り入れた実践 <対応課題 ④⑤⑥⑦>
 - ・東陽米（5年生）
 - ・豆腐づくり（倶知安農業高校との連携）
 - ・味噌づくり（H25年2月1日実施3年生）※3年間熟成させた味噌を卒業時期に配付
 - ・ふるさと給食事業（10月19日<食育の日> 地場産品活用学校給食提供事業）
 - ・ポン菓子体験学習（共和町農業開発センターとの連携）9月27日実施
 - ・地場産物を活用した親子料理教室（2月23日）
- (3) 先進地函館を視察し、栄養教諭や研究団体と連携した食に関する指導の研修を深める。<対応課題 ⑤>
 - ・函館市栄養教育研究会・函館市内実践校の視察（12月）



II 食に関する幼小の連携を図り、望ましい食習慣の定着に向けた地域・家庭への啓発活動

- (1) 幼小での給食時間の交流参観 <対応課題 ②③>
 - 共和町幼小連絡会～食育を通じた幼小の円滑な接続<H24年3月7日食育に関する学習会>
 - 給食時間の交流参観<1月>
- (2) 食に関するマナーや食事を通じた望ましい人間関係づくり <対応課題 ①②③④⑤>
 - ・講演会（共和町PTA連合会・共和町教育研究会との連携）
 - 「食育」料理研究家 星澤幸子 氏 <11月1日>
 - ・給食試食会<7月6日・11月30日>
- (3) 地場産物を通じ、学校・地域・生産者との交流会を通して互いに食の充実についての協力体制をより確かなものにする。<対応課題 ⑥⑦>
 - ・ふるさと給食事業（10月19日<食育の日> 共和町若手生産者グループ「グローアップ」との連携）
- (4) 食育啓発用パンフレットを管内及び町内各学校等に配布し、食に関する興味や関心を高める。
 - 12月発行予定<対応課題 ③④⑤>

テーマ1の具体的計画

実施時期	テーマ	備考
	学校における食に関する指導の充実 計 画 事 項	
7月 6日	第1回給食試食会<実践中心校>	
8月30日	実践中心校 第1回食育・給食アンケート実施	実践中心校
9月19日	第1回北海道食育推進検討委員会	
9月29日	ポン菓子体験学習<共和町農業開発センター・実践中心校>	全校児童
10月19日	「ふるさと給食」<地元生産者グループ・全町幼・小・中>	
11月 1日	講演会・料理研究家 星澤幸子氏	町P連主催事業
11月30日	第2回給食試食会<実践中心校>	
12月19日	第2回北海道食育推進検討委員会	
1月29日	実践中心校「食育」公開研究会・3年豆腐づくり 栄養教諭による学級指導（4年）	外部講師（倶知安 農業高校）
1月31日	先進地調査「函館市立八幡小学校」	
2月 4日	味噌づくり（JA前田農協婦人部・第3学年）	
2月13日	実践中心校 第2回食育・給食アンケート実施	実践中心校
2月23日	親子料理教室（おからを使ったお菓子づくり）	実践中心校
2月26日	先進地調査「寿都食育センター」	
2月28日	第2回共和町食育推進検討委員会	
3月11日	食育啓発パンフレットの送付	後志管内小中学校

本事業における評価指標と考察

<H24年度8月・2月実施「食育・給食アンケート」結果>

アンケート項目	実態指数(8月)	目標指数	評価指数(2月)
朝食欠食（ほぼ毎日、週2、3回）	8%	0%	7%
箸使い（うまく持てない）	20%	10%	27%
給食残（いつも残す、時々残す）	73%	50%	73%
野菜摂取（ほとんど食べない、1日1回）	27%	15%	25%
孤食（よくある）	6%	3%	7%
食への感謝 （「いろいろな人の努力により食事ができること」知らない）	20%	5%	6%

<考察>

課題であった野菜摂取についてと食への感謝について成果が見られた。ふるさと給食や栄養教諭による全学級での食育指導が要因であると思われる。箸の持ち方については、アンケート後の調査では「持ち方の違いに気付いた。」「自分の持ち方がおかしいと分かった。」などの結果が得られた。

本事業の成果

- 共和町食育推進計画に沿い、学校経営方針に食育を基盤に位置付けし、実践中心校の食育指導年間計画の見直しが行われ食育を推進することができたこと。
- 栄養教諭による給食指導や食育指導を通して食に関する課題を解決する道筋ができた。特に食育推進中核学年（第3学年、第5学年）をつくることにより内容が焦点化できたこと。
- 幼小の連携においては、箸の持ち方から鉛筆の持ち方への流れが意識され、食育を通して幼小の接続ができてきたこと。
- 地域においては、給食試食会や講演会、広報活動などにより食生活の改善のための啓発が進んだこと。

今後の課題（今回の事業を実施した結果、新たに見えた課題）

- 年間指導計画による各学年の系統性をより明確にし、食育中核学年（3年・5年）の取組を充実させる必要があること。
- 家庭の協力が不可欠であるため、より一層の啓発活動が必要であること。
- 幼少はもちろん、近隣校とも連携し、継続した取組で食の知行一致を目指し食に関する実践力を育てる必要があること。